

大学院 FD 活動報告

1. はじめに

大学院 FD 委員会では、教員の研究力および教育力の向上を目的とし、2024 年度では下記 3 点について取り組んだ。

- 1) 外部講師による講演会の開催
- 2) 大学院担当教員の研究紹介による研修会
- 3) 大学院生へのアンケート調査の実施

以下に、実施状況の概要を報告する。

2. 実施状況報告

1) 外部講師による講演会の開催

早稲田大学の卒業生を対象とし、大学内の機器により内臓脂肪の測定や骨密度の測定も含めた身体組成測定、血液生化学検査、運動負荷試験、体力測定など多方面からの測定データにより生活習慣病の発症やリスクを横断的な検討とともに、追跡していく縦断的な検討から研究成果を解説していただいた。講師の樋口先生はアグレッシブに研究の成果をお話され、活発な討論が行われた。

日時：2025 年 2 月 10 日（月）14：00～15：30

会場：4 号館 2 階 422 講義室

講師：早稲田大学スポーツ科学学術院名誉教授

早稲田大学アクティヴ・エイジング研究所顧問

樋口 満 先生

演題：健康寿命をどう伸ばすか ～WASEDA'S Health Study のエビデンスを中心に～

参加者数：本学大学院担当教員、大学院生および本学教職員 27 名

2) 大学院担当教員の研究紹介による研修会

大学院担当教員に今年度から加わった 3 名の研究紹介による研修会を下記の 2 回に分けて実施した。3 名の教員の専門がそれぞれ異なる分野であることから、自己紹介を兼ねた研究紹介を行うことで情報を共有し、今後の大学院の研究・教育活動に役立てることを目的に実施した。

第 1 回大学院 FD 研修会 学内教員による研究紹介

趣旨：昨年度後期から大学院教員に新たに加わった 4 名の教員が自己紹介を兼ね、それぞれの分野から研究紹介を行った。当日の質疑応答では大学院の担当教員だけでなく、大学院生も活発な発言があった。

日時：2024 年 12 月 7 日（土） 15：30～17：00

会場：422 講義室

司会：村田 浩子、岡本 節子

発表者と内容：1名につき20分（発表15-20分，質疑応答5-10分）

辻 典子 先生 「乳酸菌がもつ免疫賦活のしくみ」

村上 光一 先生 「食中毒細菌 *Escherichia albertii* に関する研究」

飯村 九林 先生 「魚類の鱗に関する研究」

岡本 節子 先生 「地域在住高齢者の身体機能，栄養素等摂取量に関する研究」

3) 大学院生へのアンケート調査と情報交換会の実施

大学院生の声を聴くアンケート調査を下記のとおり実施した。尚，昨年度と同様，例年実施していた教員と大学院生との情報交換会は感染症の流行時期ともかさなり，やむを得ず中止した。

○2024年度大学院生の声を聴くアンケート調査と結果の概要

<実施期間と実施方法>

2025年3月6日（金）～3月12日（日）

今年度はより匿名化を徹底するために，Formsを利用したWebアンケートで実施した。

<設問と集計結果は下記の通り>

○回収率

14名中6名，42.9%（修正課程 33.3%，博士後期課程回答率100.0%）

全学生に共通する質問

1 カリキュラムや研究指導で大学院生への配慮は十分ですか。

⇒「はい」5名，「いいえ」0名，「どちらでもない」1名

2 1について要望があると回答した方はその内容をお書きください。⇒記述なし

3 研究指導体制について要望はありますか。⇒「ない」5名，「ある」1名

4 3について要望があると回答した方はその内容をお書きください。⇒記述なし

5 大学で利用可能な文献データベースや図書について要望はありますか。

⇒「ない」4名，「ある」2名

6 5について要望があると回答した方はその内容をお書きください。

⇒学内でダウンロードできるジャーナルが少なすぎるため，契約ジャーナルを増やしてほしい。リクエスト図書の数を増やしてほしい。

7 大学院講義室，院生室，その他大学院関連施設・研究設備についての要望はありますか。

⇒「ある」1名，「ない」5名

8 7について要望があると回答した方はその内容をお書きください。

⇒院生室でもコピー機能，PDF機能のあるプリンターを設置してほしい。<*1>

9 大学院生生活の経済的基盤について大学の配慮は十分ですか。

⇒「はい」3名，「いいえ」2名

- 10 9 について、意見や要望があればお書きください。
⇒研究費とは別枠で大学独自の研究助成金制度があると嬉しいです。博士課程の RA や JST などの経済的支援を拡大してほしい。学生支援課からの博士向きの奨学金情報なども定期的にメールしていただきたい。
- 11 授業時間割や中間報告等の年間スケジュールについて、要望はありますか。
⇒「ない」5名、「ある」1名
- 12 11 について意見や要望があればお書きください。
⇒大学院授業を学生が日程を確定するのではなく、固定曜日の固定時間でシラバスを作成していただきたい。また博士1年時の中間報告が入学してまもなくだったので、夏に調整していただきたい。
- 13 大学院修了後の進路、就職について、大学のサポートは十分ですか。
⇒「はい」4名、「いいえ」2名
- 14 13 について意見や要望があればお書きください。⇒記述なし
- 15 修了要件である学会発表について、資金面での大学のサポートは十分ですか。
⇒「はい」2名、「いいえ」4名、「どちらでもない」2名
- 16 15 について意見や要望があればお書きください。
⇒大学院生の学会発表は旅費(交通費と宿泊費)の支援をしていただきたい。また大学院生一人あたりの院生費も小額であるため、増額を望む。
- 17 以上の質問以外でご意見や要望があればお書きください。
⇒博士課程への経済的支援、学会や論文投稿などの支援拡充をよろしく願いいたします。

修士課程の学生に対する質問 該当者判別不可

- 17 本学の大学院博士後期課程に進学したいと思いますか。
⇒「はい」0名、「いいえ」1名、「どちらでもない」3名

<対応、ならびに今後に向けての課題>

アンケート終了後、アンケートの回答および修士課程と博士後期課程の内容をまとめた内容を大学院担当教員全員に閲覧できる形にした。各担当委員の教員で、要望があった内容への対応を検討する。また、昨年度と同様に実施方法を Forms に変更したが、博士後期課程の回答率は100%と昨年度より大幅に上がった。修士課程については今年度修了学生にも配信したため、回答しなかった可能性が高く、回答率が低かった可能性がある。大学院は留学生、および社会人が占める割合が高いため、今後、指導教員と協力して丁寧なヒアリング等の機会を設けることが必要である。

3. まとめ

大学院の FD 活動は昨年とほぼ同様の内容であったが、学内講師による研修会として実施した内容は、大学院生の在籍数も増え、担当教員も増えていることから、新任教員の研究紹介はかな

り充実していた。大学院生からも担当教員の研究紹介に対して、質問するなど、質疑応答が活発に行われた。また、学外講師による講習会は、毎年、大学院の3つの構成分野である食科学分野、栄養科学分野、健康科学分野が持ち回りで講師を紹介して実施しているが、今年度の講演内容は、規模が大きい追跡観察研究の結果を多く示していただき、健康寿命の延伸のための運動と栄養、休養に関する知識を蓄積することができ、今後の研究への発展につながることを考えられた。

最後に大学院生へのアンケート結果から、研究の成果発表に関して資金面のサポートを要望する声が例年以上に上がっている様子が見られた。大学院生は修了要件に研究結果の学会発表や論文発表が含まれているため、今後は、大学からの経済面での十分なサポートをお願いしたい。

以上